

「新たに生まれなければ」

ヨハネによる福音書 3 章

- 1 さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。
- 2 ある夜、イエスのもとに来て言った。
「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。
神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」
- 3 イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」
- 4 ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って
生まれることができるでしょうか。」
- 5 イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」
- 6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。
- 7『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。
- 8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。
- 霊から生まれた者も皆そのとおりである。」
- 9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。
- 10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。」
- 11 はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの
証しを受け入れない。
- 12 わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。
- 13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。
- 14 そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。
- 15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

* * * * *

1)ファリサイ派・議員・ニコデモ

ニコデモという人がイエス様のところを尋ね、会話した記録です。
この人はファリサイ派に属し、いわば国会議員でもあり、イエス様に敵対している集団の中に生きていた人ですが、
イエス様に興味を持ち、夜イエス様を訪ねてきました。

ある程度の勇気と覚悟が必要だったのだと思います。

そしてそれはヨハネの福音書の 19 章の中にも、わざわざ夜イエス様のところにやってきた人物として紹介されています。

弟子たちにとって、夜やってきたことが印象深かったのだと思います。

「夜やってきたニコデモ」(ヨハネ 19 章)

38 その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。39 そこへ、かつてある夜、イエスのもとに來たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って來た。

この人はイエス様の情報を集め、イエスという人は普通の人ではないと自覚していました。そして、そういうことがわかる自分への

評価を求めているのかもしれませんが。

つまり、わたしには「あなたがやっている出来事は、神様が引き起こしている出来事だと信じています。それを確信し、知っています。」とイエス様に語ります。

しかし、それはニコデモの「知的・客觀的事實の認識」であり、「イエス様について」の知識でしかありませんでした。

イエス様はニコデモに対して

3 イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の國を見ることはできない。」と語ります。

「私はイエスについて知っている」というだけでは十分ではありません。それは知的な客觀的な知識としては有効ですが

自分が変わる、あるいは、変えられる力にはならないのです。「自分はこのことについて知っている」という誇り、自慢がそこにあります。

「イエス様を知る」「神様を知る」「救いを知る」「神の介入を知る」ことが大事なのです。

2)「神の支配」を味わうための条件

イエス様は、それを「新しく生まれなければ」という表現で語りました。

「自分が、神様について知っている」という自覚から「神様が私を知っていてくださる」「私は神様に愛されている」

「私は神様に知られている」という 180 度方向性の違う気づきが必要なのです。

「私が神を知る」ことは大事なことですが、それは神様について何万分の 1 程度の知識でしかありません。

「私は神様に知られている」という自覚は、私の存在よりも神様の存在の方が大きく、私は神様の支配の中に生かされている

という気づきに通じます。「新しく生まれる」という表現は「視座が 180 度変わる」というふうに理解できると思います。

しかも、肉体的な世界の理解から霊的な世界の理解への変換ということにも繋がります。

ニコデモには、それがすぐにわかりません。「自分が知っていること」のほうが大きいことだと思っているからかもしれません。

3) 風は思いのままに吹く

5 イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。

7『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。

8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。

霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

人間的な理解で神を知り、イエス様を知ることがどれほどできても、神様からの命を受け取ることが

なければ、そこには神様が本来提供しようとしている祝福はありません。

霊的ないのちが必要なのです。

聖霊はわたしたちにイエス様の十字架と復活の意味を自分のための出来事だと理性で頷くだけでなく

心からそれを喜べる時があることを教えています。

イエス様はここでも「十字架について」語っています。

そこが霊的な理解の中核なのです。

* * * *

MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/Txj6JNUbDws>